財政制度等審議会　財政投融資分科会
【議事要旨】

１．日　時
令和８年１０月２８日（水）　１４：３０～１６：２８

２．場　所
財務省第３特別会議室（本庁舎４階）／　オンライン

３．出席者（敬称略）
［委　員］
翁百合、土居丈朗、野村浩子、丸田健太郎、家森信善、渡辺努
［臨時委員］
有吉尚哉、岡田章裕、小橋文子、工藤禎子、西野和美、山内利夫

［財務省］
阿久澤理財局長ほか

４．議　題
〇海外需要開拓支援機構（CJ）の検証等に係る検討会の状況報告
〇令和９年度財政投融資計画の編成上の論点

５．議事経過
（１）議題について、事務局より説明が行われた。

（２）委員からの主な意見等は以下のとおり。

〇海外需要開拓支援機構（CJ）の検証等に係る検討会の状況報告
・海外需要開拓支援機構（CJ）の検証等に係る検討会において、幅広く検証が行われているものと認識した。

・CJ機構が中間整理に記載されているような課題があったことについて、早期に把握できなかったのか。

・最終とりまとめに向けて、経済産業省、CJ機構のそれぞれが果たすべきだった役割、その責任についても検証を深めていただきたい。

・クールジャパンの定義づけがしっかりと行われておらず、何を重要視して、どのような事業分野に重点的に投資を行う必要があるのか決められていなかったのではないか。

・CJ機構において行われた過去の経営改善策が十分に機能していたのかなどについて検証を深めてほしい。また、これらの検証は、他の官民ファンドにおいても参考とするべき。

・社外取締役が中立的なモニタリングではなく、執行業務（推進役）を担っていたという点は、組織上の問題ではなく、機能や人事面の問題ではないか。

〇令和９年度財政投融資計画の編成上の論点

●国際協力銀行（JBIC）について

・直近の案件公表のプレスリリースでは、着工時期や関係する日本企業名など情報を充実させたことは前向きに評価したい。

・各プロジェクトのロードマップや実際の進捗状況、全体として想定されるリスク・リターンなどを発信していくべきではないか。

・日米戦略的投資イニシアティブの融資承諾が当初の想定どおりには進行していない現状も踏まえれば、実行可能な事業規模を見極めることが重要ではないか。

・リスクバッファは必要だが、産業投資の財源には限りがあることも踏まえれば、機会費用を強く意識し、過不足のない量を持つことが重要である。

・リスクバッファを必要最低限に抑える観点から、事業の進捗に応じて段階的に資本を投入するという方法も考えられるのではないか。

・日米戦略的投資イニシアティブが進展することで、JBICのポートフォリオが米国に大きく偏ることになるが、どのように対応しているか。

連絡・問い合わせ先
財務省理財局財政投融資総括課調査係
電話　代表 03(3581)4111 内線2578

（注） 本議事要旨は、今後字句等の修正があり得ることを念のため申し添えます。